

『在宅訪問の満足度』

よしの訪問看護ステーション

(旧：在宅訪問診療科)

看護師5名

発表者：持永 絵美

はじめに

今回、在宅訪問についてどの様に考えているのかを確認するためアンケート調査を実施した。

アンケート調査を行った目的としては患者及び家族の気持ちや希望の把握をすることにより、業務改善や看護師の意識改革を図りたいと考えた。

また、最近独居老人の孤独死が話題になっているため、独居老人が現在の生活でどの様に考えているのかを知る機会にもなると考えた。

具体的な取り組み

アンケート内容は

- ①訪問診療についてどう思っているのか。
- ②訪問の内容の11項目（診察の仕方、あいさつなど）を良い・ふつう・悪いの3段階で判断。
- ③訪問診療での気付いた点。
- ④家族の意見。

活動の成果と評価

- ①訪問診療については、定期的な訪問をして貰えるため助かっているや歩行困難で外来受診することが出来ないため、感謝していますなどの意見があった。
- ②11項目の内容としては、全項目において良い、ふつうに回答あり。

③気付いた点は細かな診療でいつも頭が下がりますなど良い意見が多かった。

- 訪問時間を大体でいいので決めて欲しい
(何時から何時までの間)
- 採血の結果を早く教えて欲しい
- 診療の日程の一方的な変更は辞めて欲しい
とあった。

④家族の意見は

- 本当に良くして下さい子ども全員安心できます。
- 心から感謝していると良い意見が多かった。
- しかし、午前中に再度寝るため朝の早い時間にして欲しい

との意見があった。

今後の課題

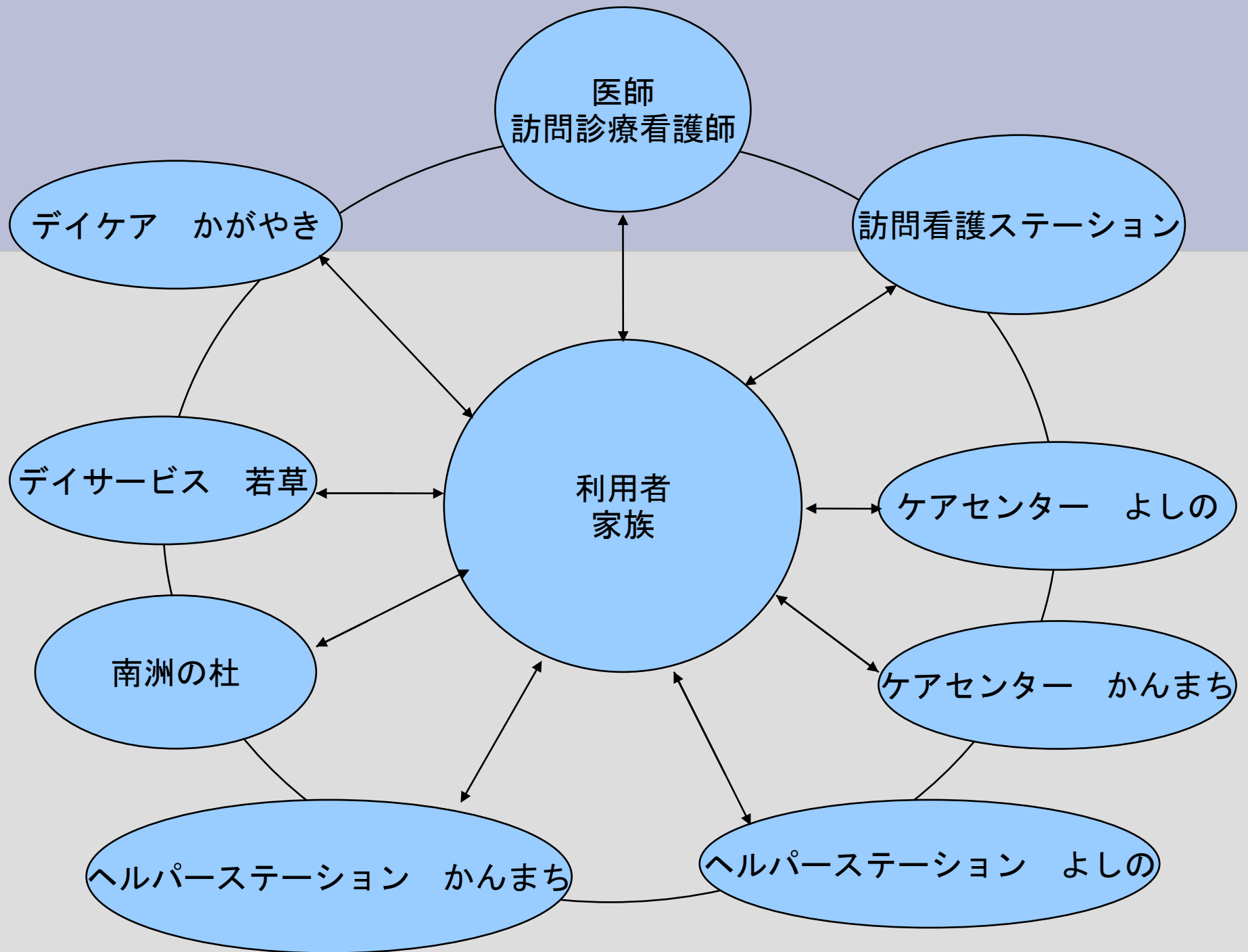
- 回収期日の詳細を決めなかったため、回収率が116件中31件と非常に少なかった。
- 回収方法が職員への手渡しであったため、本音を書くことが出来なかった。
- よって、アンケート最終締め切り日を決定することや返信用の封筒の準備（手渡しでの郵送でも可）を行うことが良かったと考える。

まとめ

- 訪問診療の時間が短いと答えた方が31名中25名であった。
- 訪問診療に利用者は現在、207名と非常に多く、一人あたりの診療時間が限られてしまうため、時間の延長は困難であると考えます。
- そのため、医療法人明輝会は様々な事業者があるグループがあるのが特徴である。
- 訪問診療時に患者の訴えを把握し、それぞれの事業所に連絡をする。

まとめ

- そのため、医療法人明輝会は様々な事業所があり、連携がとりやすいことが特徴である。
- 訪問診療時に患者の訴えを把握し、病状に関することは医師に話をする。
- その他の内容に関しては、訪問看護職員や介護支援専門員、通所系職員、ヘルパーと連携を図り、包括的なケアを行うこと患者の満足度向上につながると考える。



まとめ

- まずは法人内の連携を深めることが重要であり、今後は地域包括支援センターや民生員との連携も図りたい。
- 利用者を多職種連携で支えることで、質の向上や満足度の向上につながると考える。
- また、独居老人の体調不良及び孤独死の早期発見につなげたい。